



## ●Cコース 夏の虫

- ◎-1 ギンヤンマ
- ◎-2 オニヤンマ
- ◎-3 アオスジアゲハ
- ◎-4 オオムラサキ
- ◎-5 カブトムシ

このコースでは、夏に見られる昆虫5種を調べます。これらの虫は子供たちの人気者ばかりですから、ご存知の方も多いでしょう。

カブトムシとオオムラサキは、郊外の雑木林などで見られます。樹液の出ているクヌギなどが目印です。カブトムシは夜か、朝早くに見つけてください。

アオスジアゲハは、家の周りをはじめ、公園、神社、林などいろいろな所で見られるチョウで、青いすじがよく目立ちます。

オニヤンマは日本最大のトンボです。黒地に黄色の帯のある胴体、透明で大きな翅、そしてその姿で夏空を勇ましく滑空しているところは、まさにトンボの王者です。山地、丘陵の流れで発生しますが、街のなかへ飛んでくることがあります。

ギンヤンマはオニヤンマより少し小さめのトンボで、明るい緑色の胸が特徴的です。池や沼に普通に見られます。

子供たちはもちろん、年輩の方も小さい頃の夏休みを思い出しながら探してみてください。



# ギンヤンマ

● *Anax parthenope julius*

## ■かたちと大きさ

体長 7 cm。胸部は明るい緑色。腹部第1節、第2節の背面は、オスでは明るい青色、メスでは胸の色とほぼ同じ。翅は透明だが黄色味を帯びることが多い。

## ■見られる場所

成虫の活動期間は4～11月。平地の池や沼に普通に見られ、水面の上空でよくパトロール飛行をしている。水辺を離れて市街地や空き地、路上に飛んでくることがある。

## ■くらし

オス、メスが連結したまま水面上に出ている水草などに卵を産み込む。幼虫（ヤゴ）は水底でくらし、翌年上陸、茎などにとまって羽化する。ヤゴは水中の小動物を、成虫は飛んでいる虫などを食べる。

## ■おもな分布地

ほぼ全国。



## ■見つけ方・見分け方

水辺を離れた場所でも見かけることはあるが、そこにすんでいるとはいいにくいので、できるだけ池や沼の上空を飛んでいるのを探そう。胸の明るい緑色がポイント。オスならおなかのつけ根の青い色も目印。

## ■注意

クロスジギンヤンマ、リュウキュウギンヤンマ、オオギンヤンマなど、似た種がいるが、今回の調査ではとくに区別せず、これらも「ギンヤンマ」として調査の対象とする。





# オニヤンマ

● *Anotagaster sieboldii*



## ■かたちと大きさ

体長9.5~10.0cmで、日本最大のトンボである。複眼は深緑色で一点で接している。胸部および腹部には黒地に黄色の帯がある。翅は透明。

## ■見られる場所

成虫が見られるのは6~9月。平地でも山地でも、小さな流れのあるような環境ならたいてい見られる。同じ場所を行ったり来たりしていることが多く、若い成虫は山の谷あいなどで群飛する習性がある。

## ■くらし

メスは頭を上にして棒立ちになり、その姿勢のままトントン上下しながら水底に卵を生む。幼虫（ヤゴ）は、水底の汚泥や落葉の下で生活し、翌年の夏、上陸して成虫になる。

## ■おもな分布地

ほぼ全国。

## ■見つけ方・見分け方

小川、湧水、湿地、溪流等の水域で

上空を飛んでいるのを見つけよう。

## ■注意

似た種にコシボソヤンマ、ミルンヤンマなどがあるが、オニヤンマより一回り小さいことで、区別できる。





# アオスジアゲハ

● *Graphium sarpedon*

## ■かたちと大きさ

翅を上げたときの長さは3.8～4.8cm。翅の中央にある青色の広い帯が特徴。4～6月に発生する春型と、7～8月に発生する夏型がある。一般に夏型は春型にくらべて大型で、青い帯の幅は狭く、色は濃い。

## ■見られる場所

雑木林から人家近く、あるいは街なかまで幅広く見ることができる。飛び方は素早い。花に集まるが、湿った所などで水を飲んでいることもある。

## ■くらし

幼虫はクスノキ、ヤブニッケイ、タブなどのクスノキ科の植物の葉を食べて育ち、さなぎで越冬、春から夏にかけて羽化する。

## ■おもな分布地

本州（秋田・岩手以南）から南西諸島にかけて広く分布するが、東北地方では海岸地帯でしか見られず、長野県のような内陸部でも少ない。しかし少しずつ北に分布を広げているので、今



後の変化が注目される。

## ■見つけ方・見分け方

食草となるクスノキ科の植物のある場所で探そう。

## ■注意

三重県以西の本州や、四国、九州、南西諸島などには、同じような環境でミカドアゲハも見られるが、アオスジアゲハは翅の中央に帯があるだけなのに、ミカドアゲハでは翅に小さな斑紋がたくさんあるので区別できる。



アオスジアゲハ

ミカドアゲハ

斑紋の色は青く見えることもある。



# オオムラサキ

● *Sasakia charonda*



## ■かたちと大きさ

翅を広げたときの長さは7.5～10.0cm。一般的にメスの方がオスより大きい。またオスの翅の表は紫色に輝くが、メスは全体的に茶色っぽい色をしている。

## ■見られる場所

おもに雑木林に生息し、6～8月頃にクヌギなどの樹液に集まっている姿が見られる。オスは夕方頃、活動が活発になり、樹液の出ている木の梢などに群がる。近くを飛ぶときなど、翅音が聞こえるほどである。

## ■くらし

夏の終わり頃、メスはエノキの葉に産卵し、幼虫はエノキの葉を食べて育つ。冬は木を降りて落葉の下でくらす。このとき幼虫の体の色は緑から茶色に変わる。

## ■見つけ方・見分け方

昼間、雑木林へ行くと、樹液の出ているクヌギの幹などで見つけることができる。



## ■おもな分布地

北海道西南部、本州、四国、九州（南部を除く）。



# カブトムシ

● *Allomyrina dichotoma*

## ■かたちと大きさ

体長3.0～5.3cm。オスは頭部に兜かぶとの前立てのような長い角をもつ。メスには角がなく大型のコガネムシのようである。体色はチョコレート色であるが黒っぽいものや赤っぽいものもある。

## ■見られる場所

発生時期は6～7月。クヌギやコナラなどの混じる雑木林に生息し、樹液を吸って生活する。夜、樹液の出ている木に集まる。電灯にもよく来る。

## ■くらし

メスは秋頃に、堆肥、朽ち木、おがくずなどのなかに産卵し、幼虫はそのなかで腐葉土に含まれる植物質を食べて育ち、さなぎとなる。翌年の夏に成虫となって出てくる。

夜行性で昼間は木の根元の土や朽ちた葉の下でじっとしているが、日が暮れて暗くなると活発に動き出す。

## ■おもな分布地

本州、四国、九州、奄美大島、沖縄諸島。北海道にも人為的に持ち込まれ



たと思われるものが生息する。

## ■見つけ方・見分け方

昼間、雑木林へ行き、樹液の出ているクヌギなどを探しておき、夜、あるいは朝早くその木を見に行ってみよう。樹液の出ている木には昼間でもチョウヤカナブンが集まっているので、それを目印にするとよい。

## ■注意

飼育していたものが逃げだしたり放たれたりした場合でも天然のものとは見分けるのは困難なので、この調査ではとくに区別しない。

